

文字を書く過程に 対する理解

文字を通して子どもを理解するポイントについて、
連載でお届けします。

広島大学大学院教授 松本仁志

本連載は、書写指導における「子ども理解」の方法や考え方について、次の三点からご紹介しています。

- ① 子どもの文字や書写の学習に対するメンタルの理解
- ② 子どもの文字を書く過程に対する理解
- ③ 子どもの書く（書いた）文字に対する理解

今回は、「②子どもの文字を書く過程に対する理解」を取り上げてお話しします。

① 横画のつまずき

下の二つの横画は、毛筆教材「二」の学習の中で子どもが書いたものです。みなさんは、これを見て、どこ（何）を指導しようと考えますか。おそらく、次の部分につ

まずいていると判断したのではないでしょう。か。

- ・ Aは、終筆部分が切れたような形になっている。
- ・ Bは、終筆部分が「こぶ」のような形になっている。

それでは、これらの部分について、どのように指導をしたらよいでしょうか。

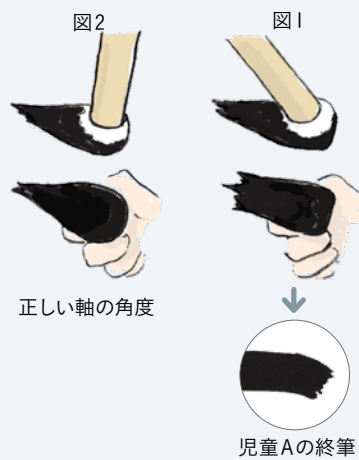
「手本（教材文字）」をよく見て書きましよう」とアドバイスする方もいるでしょう。しかし、子どもが自力で課題に気づき、試行錯誤しながら技能を習得するのは難しいかもしれません。「このように書くのですよ」と書き方を説明しながら、正しく示範してみせることも考えられます。教師が示範して見せているので丁寧な指導に見えるかもしれませんが、子どもは心の中で、「そ

② 文字を書く過程を観察・把握する

では、児童AとBは文字を書く過程でどのようにつまづいていたのでしょうか。図1のように、運筆方向に対して逆に軸を倒して押すように書けば、筆と紙の接合面は、児童Aの書いた横画のように切れた形になります。切れた形が気に入らないからぐつと押さえる（上から筆圧をかける）と、今度は児童Bの書いた横画のようにこぶがでます。

児童Aの場合は、筆の軸の角度に対しての知識の不足、あるいは、知識はあっても書くときに意識できなかったことがつまづ

筆の軸の角度と穂の形の関係



きの主な原因だと考えられます。児童Bの場合は、こぶを取る指導と軸の角度の指導の両方が必要になるかもしれません。このように、子どもがどのように書いているのかを観察し、どこでつまづいているのかを把握します。そして、それはどのような理由によるものなのかを判断したうえで、指導を考えていきます。

③ つまずきの原因を理解させる指導・発見させる指導

つまづきの原因を踏まえようと、まず考えられるのが、つまづきの原因を理解させ、そのうえで指導する方法です。例えば、児童Aに対しては、改善が必要な終筆部分を指して、「筆を押すように書くから軸が倒れてこのような形になる」（図1）と原因を説明しながら書いてみせた後に、その比較対象として「やや手前に傾けた軸の角度をキープして書く」とこのように書ける」（図2）と正しい書き方で示範してみせるのです。

また、こぶができる児童Bの場合は、筆圧のかけ過ぎとこぶの関係を書いてみせながら、こぶがでないように意識させればよいのです。



1964年、千葉県生まれ。専門は書写書道教育。光村図書小学校・中学校『書写』教科書編集委員。著書に『筆順のはなし』（中央公論新社）、『書くこと』の学びを支える国語科書写の展開』（三省堂）など。

うやって書いたつもりだけ書けないから苦労しているんだよ」とつぶやいているかもしれません。

字形と書き方（筆使い）は因果関係にあります。効果的に指導するには、書かれた字形だけに着目するのではなく、その子の書き方（筆使い）を理解することが、つまづきの原因の把握につながります。ここに、子どもの「文字を書く過程」に対する理解が必要であることの理由があります。



さらに、書き方（筆使い）を視覚的に比較させて、説明を加えない展開なども考えられます。「こうやって書いた場合と、こうやって書いた場合とを比べて、何か気づくことはありませんか？」と、つまづきの原因を子どもが発見するように導きます。視覚的な比較だけになるので、見るべきところを焦点化できるようなメリハリのある運筆動作の工夫が必要になります。

④ 原因の分析から効率的な指導を

「文字を書く過程」とは、点画単位でいえば始筆から終筆まで、一文字単位でいえば書き始めから書き終わりまで、語句・文章だったら文字群の書き始めから書き終わりまでをいいます。子どもの「文字を書く過程」をたくさん観察する中で、いくつかの傾向が見いだされれば、書かれた字形からどのような書き方（筆使い）をしたかが推測できるようになるでしょう。その傾向が、多くの子どもが共有する課題であれば教室全体に還元し、個々の子どもの課題であれば机間指導で対応するようにすれば、限られた書写の時間で効率的に指導することができると思います。